



はじめに

毎年のことではありますが、この時期はお祭り三昧。センターの子どもたちも、さんべ祭に始まり、センターの20周年記念式典、山口祭り、学校の文化祭、収穫祭（11月23日には祖式町の文化祭）と、いろいろなお祭りに参加し、多くの方々と交流することができました。

中でも、センター20周年記念式典やその後の祝賀会、収穫祭では、多くの修園生が三瓶に里帰りし、受入農家さんをはじめとした地域の方々や、修園生同士、または学園生とも交流を深めていました。その交流の一つのツールとなったのが、“太鼓”。センター開設当初から、地元の子も一緒にずっと取り組んできた太鼓は、時を超えて子どもたち（子どもだった人たち）の気持ちを繋いでくれます。はじめましての人も、一緒に太鼓を叩くことで笑顔になったり、時に負けまいと必死になったり、言葉は交わさずとも、それぞれの気持ちが交錯しているのが音とともに伝わってきます。学園生にとっては、自分たちより体の大きな人が力いっぱい太鼓を打ち鳴らす音や姿に刺激を受けた子も多く、とても有意義な交流になったのではなかと思います。

山村留学がもたらすもの。それはその人の立場によって違い、決して一言で言い表せるものではありませんが、だからこそその可能性は無限大なのではないかと考えています。これからも三瓶の地で山村留学が続くことを切に願っています。

稲井祐介

活動カレンダー

10月19日（土）	さんべ祭 太鼓出演	11月 4日（月）	AM 収穫祭ビラ配り
24日（木）	センター入り	9日（土）	収穫祭準備
26日（土）	20周年記念式典	10日（日）	学校文化祭
27日（日）	収穫祭準備	11日（月）	収穫祭準備
11月 2日（土）	収穫祭準備	16日（土）	収穫祭
3日（日）	AM サツマイモ掘り	17日（日）	収穫祭
	PM 山口例大祭 花車奉納	19日（火）	農家入り

さんべ祭 10/19 (土) 晴れ

国立三瓶青少年交流の家でさんべ祭が行われ、その前夜祭に北三瓶っ子太鼓クラブで太鼓を披露しました。20周年式典、収穫祭など発表の場がたくさんあるため、練習にも力が入ります。今回は、豊年太鼓、中学生でやる秩父屋台囃子、そして三宅島太鼓を披露しました。



1学期の発表ではどうしていいか

分からなくてキョロキョロしてた新入園生も、かっこよく叩けるようになってきました。

これからも、色々な所で叩ける機会があります。次はどんな演奏ができるのか楽しみです。



20周年記念式典 10/26 (土) 晴れ

三瓶こだま学園が出来て20周年の式典と祝賀会が行われました。本来なら、昨年の予定でしたが今年開催されることになりました。前の日からOB・OGが来たりしていて、学園生も嬉しそうでしたが、本番は迎えるホスト役の学園生。会場の準備をしたり、太鼓の演奏があったり、片付けをしたりと、ホストとしての役をしっかりと果たしていました。OB・OGを始め、これまでこの三瓶こだま学園に関わった方々が大勢いらっしゃいました。これだけの方々に支えられながら、今の学園生が生活しているんだと感じた式典でした。子ども達も自分たちの先輩に会えて嬉しそうでした。



り、片付けをしたりと、ホストとしての役をしっかりと果たしていました。OB・OGを始め、これまでこの三瓶こだま学園に関わった方々が大勢いらっしゃいました。これだけの方々に支えられながら、今の学園生が生活しているんだと感じた式典でした。子ども達も自分たちの先輩に会えて嬉しそうでした。



り、片付けをしたりと、ホストとしての役をしっかりと果たしていました。OB・OGを始め、これまでこの三瓶こだま学園に関わった方々が大勢いらっしゃいました。これだけの方々に支えられながら、今の学園生が生活しているんだと感じた式典でした。子ども達も自分たちの先輩に会えて嬉しそうでした。



さつまいも掘り 11/3 (日) AM 晴れ

この日は、みんなでサツマイモ掘りをしました。寒くなってきましたが、まだまだ青々としているサツマイモの茎や葉っぱを採り、土を掘ってみると、中からサツマイモが出てきました。大きいサツマイモや、変わった形のサツマイモ、ネズミに食べられているサツマイモなど、出てくるたびに「見て!」「見て!」と大騒ぎで掘っている新入園生の横で黙々と作業をする継続生の姿。みんなで協力して1時間ほどでサツマイモを収穫することが出来ました。ネズミに食べられている所も少しありましたが、概ねたくさんできたと思います。これからサツマイモ料理が楽しみです。



センターのサツマイモを収穫した後は、それぞれ My 畑の収穫をしました。サツマイモに、サトイモ、落花生など秋に植えた野菜以外はほとんど収穫を終えました。



山口例大祭 花車奉納 11/3 (日) PM 晴れ

山口八幡宮の秋の例大祭がありました。山留生も祭に参加し、そのあと注連縄や旗をもって地域を歩きました。今年は、5年ぶりに山口花車が集落を練り歩きました。大人の大きな花車と子ども達の小さな花車の2台あり、小さい方は小学生を中心に「よいやさーこらさー」の掛け声とともに花車を押しました。神社まで戻ってくると、最後は花車を倒し縁起物として花飾りを頂きました。花飾りには七福神の絵が一人ひとり描かれた絵馬が飾ってありますが、一番てっぺんには七福神みんなが描かれた絵馬が1枚だけあり、みんなそれを狙っていましたが、今年は、山留生の1人が取ることができました。久しぶりの花車奉納に参加することが出来て光栄でした。



収穫祭準備

収穫祭へ向けては、2学期に入ってから、本格的に取り組みを始めました。まず個人体験では、1学期の頃からテーマを決めて取り組む子、2学期に入ってからようやくテーマが決まり取り組む子とそれぞれでしたが、みんな自分のやりたいことを見つけて取り組むことができました。



劇は、中3と指導員で話し合い今年は民話劇にすることを決め、その後みんなでどんな民話がいいか話し合いました。台本ができると、台本を覚え舞台上で練習が始まったり、小道具大道具を作ったりしました。最後の配役紹介でのミニコントは自分たちで台本を作り発表しました。



それ以外にも、子ども達は3つ（農事暦発表、感謝の式、司会書き物）の係に分かれそれぞれ担当を決めて準備を進めたり、収穫祭の1週間前には、全員で地域に出て1軒1軒チラシを配って歩きました。



センター中の活動のない休日や、学校から帰ってきてから夕食までの時間や夕食後の夜の時間等、自分たちで時間を作って準備を進めました。なかなか取り組みがうまく行かないこともありましたが、何とか当日を迎えることができました。



収穫祭（1日目） 11/16 (土) 曇り

いよいよ収穫祭当日を迎えました。半年間やってきた農作業の収穫のお祝いに合わせて、これまでの半年間の成長を見せる日、そしていつもお世話になっている地域の方々への感謝を表す山村留学センターでの一番大きな行事になります。子ども達はこの日に向けていろんなことを取り組んできました。



1日目は農事の報告、感謝の式、そして個人体験発表、全体発表、会食会と朝から盛りだくさんな内容でした。子ども達はこの日に向けて準備をしてきました。朝から掃除をしてお客様を迎える準備をしたり、発表の準備をしたりしました。午後からの発表には大勢のお客様に来ていただき、少し緊張気味な子ども達でしたが、それぞれが準備してきた成果を発表出来ました。全体発表では、民話劇をやったり、地元の子と一緒に踊りや太鼓を披露したりしました。



会食会も全部終わった後に、学園生だけで感想を言いましたが、大勢の人の前で発表出来て自信になった子もいれば、まだまだできたと思う、と後悔が残る子も。みんなそれぞれに何か収穫した1日だったのではないかと思います。



収穫祭（2日目） 11/17（日） 雨のち曇り

2日目は、地域の方々に感謝を込めておもてなしをする日でした。模擬店やバザーなど、保護者を中心に準備を進めてきましたが、当日は多くのOBやOG、その保護者も駆けつけてくださり、賑やかに行われました。アサリ飯や中華まん、ワッフルなどのお店や、推進委員会の方々も豚汁のお店を出してくださいました。子ども達も太鼓を叩いたり、売り子になったりして盛り上げました。

天気は生憎の雨になってしまいましたが、そんな天気の中でも大勢の方々に来ていただき大盛況のうちに終わりました。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。



西村崇司のつぶやき

／なみだ／

東ヨーロッパのウクライナでの軍事侵攻や地中海沿岸のイスラエルとパレスチナの戦争が続いています。伝えられるニュースの報道を見聞きするにつけ、戦争の悲惨さを感じずにはいられないですが、反面、長期にわたるためとすればスルーする自分がいます。その戒めではないですが、時折り、ことしの春先のあるテレビ番組でウクライナ出身の女性記者の帰国取材番組を思い出すことがあります。その番組は、戦禍が続く首都を離れずに暮らす両親との数年ぶりの再会の場面から始まりました（帰国しようにもコロナウイルスまん延で移動制限がかかっていたため数年ぶりの帰国となったとのこと）。爆弾が撃ち込まれた自宅の惨状や窓際から離れた場所へ移した食卓での会話をはさみ、娘（記者）は「一度も泣いたことがない父が涙もろくなった。泣き虫だった母が泣かなくなった（本人の弁では“泣けなくなった”）。とてもつらい」とレポートしていました。涙ひとつで戦争の不条理を語られると強く感じました。また、同窓会を開くための連絡をとりあっていた出征中の幼なじみの男の子が戦死したことの知らせを受けた際、「これが最後の話しになるかもしれない話しをするのが怖くなった。これが戦争だ」と吐露していた場面では、涙がかれた表情の顔が今でも思い出されます。

次はうれし涙のはなしをふたつ。いずれも長期留学生のエピソードです。最初は受入農家さんから聞いた話です。子どもたちは登下校の際、地元の人に会うと「おはようございます。帰りました」とあいさつをします。「おはよう。今日も元気だね。行ってらっしゃい」「お帰り。今日も楽しかったかね」などとあいさつを返していただき、これが都会地にはないこの地域の日常です。十数年前のある寒い日の朝のこと。登校中の中学生男子と地元のおばあさんとの会話。男子>おはようございます、おばあさん>おはようさん、男子>今日は寒いですね。おばあさんは、この最後の「今日は寒いですね」の一言がとてもうれしかったようで、受入農家さんに「あんたとこにいる男の子がこんなことを言うてくれて、涙が出るほどとても嬉しかった」と伝えられたことがあったと聞き、もらい泣きした記憶があります。たった一言を添えるだけでも、相手をおもんばかる気持ちが通じたり伝わることをいまさらながら感じ取ることができました。もう一つは、今年の秋に開催したセンター開設20周年記念式典でのトークセッションのひとつ。登壇者の卒園生母親が「自分の息子は中学3年生までの5年間、北三瓶でお世話になりました。いま、高校3年生で大学進学を考えています。が地方創生を学びたい考えがあるようです。ぼくの住民票は大田市にある、と言っているほど北三瓶や大田市に愛着を持っています。将来、何らかのかたちで恩返しをしたい気持ちがあるようです・・・」。小学5年生で入園したこの子のことを思い出すと、ここ北三瓶での5年間で体感したことが、社会に対する関心や問題意識につながっていると感じもらい泣きました。嬉しいとき、悲しいとき、困ったときに流す涙はどれも塩っぱい、これは共通しています。

「くにびき通信」2024年10・11月号



大田市
山村留学センター
Sanbe Kodama Academy



大田市山村留学センター 公式ホームページ



バックナンバー

〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694

TEL: 0854-86-0700 FAX: 0854-86-0701 Email: o-sanryu@city.oda.lg.jp